

ブラックジャック 500

単 元	正の数・負の数	対象学年	1 年
ね ら い	ゲームを通して、楽しみながら正の数・負の数の計算練習をすることで、乗法の交換法則、結合法則を使った計算の工夫を考えることができるようにする。		

1 準備するもの

教師：トランプ（グループの数）、ワークシート

2 学習のしかた

(1) 人数

4～6人のグループで、ゲームを行う。

(2) ルール

カードの値の積を+500に近づけていく。+500または、+500により近い人が勝ち。

(3) カードの値 ※7～9, J, Q, Kは計算が困難になるので除く。

♠♣A～6, 10 : +1～+6, +10 ジョーカー : 0

♡◇A～6, 10 : -1～-6, -10

(4) ゲームの進め方

- ① 1人に2枚ずつ配る。1枚目は裏向き, 2枚目は表向きに置く。全員に配ったら残りのカードは中央に置いておく。
- ② 2枚の配られた自分のカードの値を見る。
- ③ 値の積が+500に遠いと思えば、中央のカードの山から1枚取り, 表を向けて置く。(あとから取れるのは3枚まで)
- ④ 欲しい人が全員カードを取り終えたら一斉に裏向きのカードを表にし、値の積を言い合う。
- ⑤ +500により近い人が勝ち。

※-500の場合は、1000離れていることになるので間違えないこと。

3 学習上の留意点

- ・ルールや手順を丁寧に説明してから、ゲームを開始する。
- ・本来のブラックジャックと違い、加法ではなく乗法を用いるので気を付けるよう言う。
- ・計算しやすいように、自分のカードの値を他の人に見られないようにし、また計算しやすいようにメモしていくとよいことを確認する。
- ・計算の仕方や計算結果が合っているか、お互いに確かめ合う場を作る。

4 学習の効果

- ・ゲームの勝敗には、運が影響をしていることから数学が苦手な生徒も勝つことができるので、みんなが楽しむことができる。
- ・勝敗が関わることから、意欲的に取り組むとともに、自分のカードの積がいくつなのか早く知りたいので、素早く計算する方法（交換法則，結合法則）を自らこと考えようとする。
- ・負の数の乗法の仕組みについて、楽しみながら感覚的に慣れさせることができる。
- ・トランプを使った加法の学習については、「アイデア集 第31集」を参照。

5 参考資料

<ワークシート参考例>

ブラックジャック500

<カードの値> ※7～9，J，Q，Kは計算が困難になるので除く。

♠♣A～6，10：+1～+6，10 ジョーカー：0

♥◇A～6：-1～-6，-10

班

	1枚目 (裏向き)	2枚目 (表向き)	3枚目 (表向き)	4枚目 (表向き)	5枚目 (表向き)	合計	順位
1							
2							
3							
4							
5							
							順位の合計